

新しい居住スタイルの現場から

都会の真ん中で、暮らす・働く 新しい職住一体のかたち

ホームオフィス（大阪市中央区）



本格的な調理もできるキッチン、ここがオフィスであるとともに、“住まい”であることを感じさせる

きっかけは「NEXT21」の居住実験

大阪の中心市街地にある大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」では、二一世紀の都市における環境・エネルギー・暮らしを具体的に考えることを目的とし、これまで二期、十年以上にわたって、さまざまな居住実験を実施してきた。その中のひとつ”ホームオフィス”実験住戸を、平成一四年秋から一年間、友人同士三人で共同生活を送る「単身者共同生活プラン」として使用したのが幸田真生子さんだ。

「大学時代の友人との共同生活は、楽しくもあり、苦しくもありました(笑)」



現在、最も力を注いでいる仕事のひとつ、神戸市垂水区に造成中の「ガーデンシティ舞多聞」のプロジェクトでは、幸田さんは住まいのコーディネーターを務める

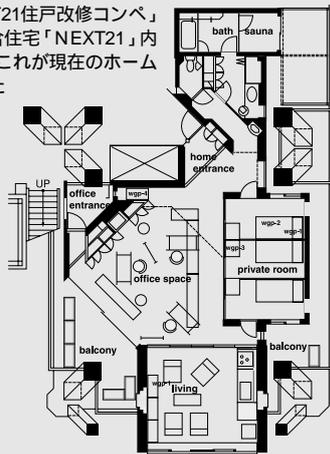
ナビゲーター

家づくり計画アドバイザー、
「CASE」代表

幸田真生子
Makiko Kouda



幸田さんが「大阪ガスNEXT21住戸改修コンペ」で最優秀賞を取り、実験集合住宅「NEXT21」内に実現した「S-es base」。これが現在のホームオフィスのきっかけとなった



「オフィスでもあり住まいでもある部屋ですから、極力モノを置かずに、シンプルな内装としました」と幸田さんが説明する現在のオフィス



CASE [ケース]

【連絡先】

TEL 06-6945-5561
FAX 06-6945-5562
E-mail kouda@case-by.jp

”家づくり計画アドバイザー”である幸田さんの仕事は、住まいをつくりたいと考える人の思いを具体的なカタチとして実現していくこと。「連携を図る建築家や工務店の多くは大阪市内でオフィスを構えていますので、当時から市の中心部にある『NEXT21』はとても便利でした」。そのため、実験期間終了に際しても、近くで新しい住まいを探し、引き続きホームオフィスとして利用しようと考えたという。

「一人で実験の続きをするという感じでした」と幸田さん。ところが、なかなか条件に合う物件がなかった。「生活をするために必要なガスや水道といったインフラが揃っているビルを探すとすると、単なるオフィスビルでは不十分だったので、少し時間がかかってしまいました」。

結果として現在の建物に出会い、仕事と暮らしの拠点とすることに決めた。ここは地下鉄の駅にも近いうえに、本町のようなオフィス街とは違い、マンションが点在する”生活の場”でもある。「夜になっても、人が歩いているので安心感がありますね」。近隣には、同じようにホームオフィスを構える人たちが結構目立つという。

「それほど意識せずに居住一体の便利さを感じ取って選んでいる人も多いようです」と幸田さんがいうように、「都市で暮らす・働く」かたちのひとつとして、「ホームオフィス」は、決して特別なスタイルとはいえない存在となっている。

(文責・CELL編集室)

CEL



本来はマンションだっただけに、窓の外に続くベランダも広々している



オフィス空間の各所は、その時々で、仕事の場所にもくつろぎのスペースにも



デスクの反対側、明るい光が入るフロアの一角は、プライベートルーム・寝室